

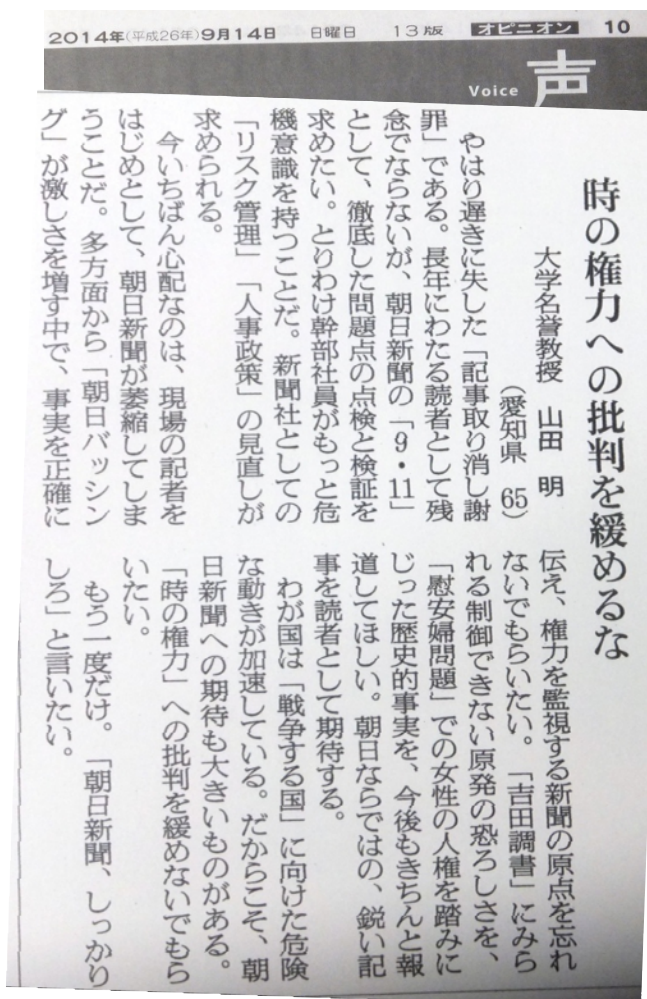
届いた「声」と届かなかった「声」

今朝 14 日の朝日新聞朝刊「声」欄に、私の投稿が掲載された。掲載されないと思いつつ、「しっかりしろ朝日新聞」と投稿せずにおれなかった。朝日 4 本社版に掲載され、全国の朝日読者に「声」が届いたようだ。

だいたい送付した原稿通りであるが、私の計算違いもあり、字数の関係で次のところが掲載されなかった。

「まさに新聞の危機である。朝日新聞だけの問題ではないはずだ。新聞社間の『足の引っ張り合い』だけはやめてほしい。」

私の「声」が届いた一方で、届かなかった投稿もいくつかある。せっかくなので、今年の 2 ケースを紹介しておきたい。一つは集团的自衛権行使の閣議決定を前にした投稿（1）である。もう一つは、つい最近の「池上コラム問題」についての投稿（2）である。



(2014年9月14日)

(1) 今日にも集团的自衛権を使えるようにする閣議決定がなされる。黙ってはおれない。

本紙 6 月 28 日掲載の「想定問答」を読むと、政府の本音があらわである。武力行使がはっきり書かれている。安倍首相の答弁とも明らかに矛盾することも多い。与党による「密室協議」のごまかしは明らかだ。このまま「戦争する国」に突っ走るつもりなのか。公明党に問いたい。「想定問答」はこれまでの党の主張と矛盾するのではではないか。結党の原

点に立ち返って再考を求めたい。最も疑問なのは、閣議決定で憲法解釈を変更することだ。昨年の今頃は、憲法改正手続きを緩めようとしたが、国民の反対で断念した。今度は国民の声を無視して、解釈改憲で憲法 9 条を壊す戦略だ。まさに憲法が危ない。なぜ堂々と国民の声を聞かないのか。国民の声を恐れているのか。昨年の特種秘密保護法の採決強行の再現だ。「戦後」日本の岐路であり、戦後を生きてきた国民、有権者の一人として声をあげたい。黙っていては、国民はなめられるばかりだ。

(2) 長年にわたる読者であるが、今回の池上彰さんの「コラム問題」には正直驚いた。最初ネットで情報を知り、腹が立つとともに心配になってきた。慰安婦報道についての「コラム」掲載を当初見合わせたという。なぜなのか。池上さんの「新聞ななめ読み」は本紙にも厳しい指摘がなされてきたが、新聞報道のあり方を考えるうえで参考になってきた。批判を率直に受け入れるのが、本紙の良き伝統ではなかったのか。4 日朝刊 1 面「池上さんコラム掲載します」を見て、まずはほっとしたが、この間の経過をきちんと説明してもらいたい。こんなことが再び起こらないように。8 月 5 日・6 日の慰安婦問題特集では、過去の記事を検証し撤回したが、本紙への批判も多い。今回の「コラム」もその一つだが、批判を切り捨てるのは新聞社として論外だ。ただし、「慰安婦問題」という歴史的事実までなかったとする論調に対しては断固として批判すべきだ。本紙への攻撃は、新聞の危機でもあると考える。こんな状況だからこそ、もっと冷静な報道姿勢が求められる。「朝日新聞」しっかりしろと言いたい。